

前奏 黙想	祈 禱
讚美歌 59 かみのめぐみ	讚美歌 294 みめぐみゆたけき
祈 禱	献 金
信仰告白 使徒信条 566	讚 詠 547 いまささぐるそなえものを
聖 書 エレミヤ書 7:10~11	黙 禱
マルコによる福音書 11:15~19	主の祈り 564
讚美歌 265 世びとの友となりて	頌 栄 542 世をこぞりて
説 教 『狼藉と解放』	祝 禱 後 奏

「それから、一行はエルサレムに来た。イエスは神殿の境内に入り、そこで売り買いしていた人々を追出し始め、両替人の台や鳩を売る者の腰掛けをひっくり返された。また、境内を通って物を運ぶこともお許しにならなかった(マルコ 11:15~16)」。大学生の時、手作り品を露店で、無許可で売った珍事を思い出す。地まわりにショバ代よこせと脅され、バイトだから知りませんとしらばっくれた。チンピラは台をひっくり返しそうな勢いで怖かったが、その言葉遣いやり口をじっと観察した。そんな実経験から、イエスの狼藉による緊張感と、周囲の人々の野次馬ぶりがありありと思ひ浮かぶ。

両替商がいたので、そこは神殿の中心から幾重もの外側にある「異邦人の庭」。イエス一行は十数人いただろうが、皆で大暴れしたわけではない。台や腰掛けをひっくり返したのはイエスお一人で、たまに起こるひと悶着に過ぎない。大騒ぎになれば、神殿に駐屯しているローマ兵士が駆けつける。この時の空気は、あこぎな両替屋らが痛い目に遭い、周囲の群衆は喝采したというものだった(11:18)。

かつて南米の反政府勢力が、自動小銃を持った「戦友イエス」のポスターを貼った。その聖書的根拠は神殿での狼藉にあるようだ。権力に抵抗するのが神の御心、イエスはその体現者にして戦友、神の義は我が軍にある、というわけだ。しかし実際のイエスは武器を持たず、小競り合いに弟子たちを巻き込まない。理不尽な権力に抵抗する事と、武器を持って戦う事は、どこで線引きされるのか。

イエスはイザヤ書を引き「わたしの家は、すべての国の人の祈りの家と呼ばれるべきである(11:17)」と語った。そして「ところが、あなたたちはそれを強盗の巣にしてしまった(11:17)」と付け加えた。許可を得て小商いする露天商が、はたして「強盗の巣」なのだろうか。このように指摘されて殺意を抱いたのは、祭司長や律法学者(11:18)。つまり多くの露天商からショバ代を徴収する神殿の責任者、神の名によって宗教的に民を支配する信仰の権威者たち。彼らの存在こそがまさしく「強盗」なのだ。

露店が出ていたのは「異邦人の庭」。壁で隔てられて、異邦人は「信仰の中心」には近づけない。また神殿へ献金も、外国の貨幣はケガレているので両替が必要だった。イエスは両替商の台をひっくり返して宣言した。「わたしの家は、すべての国の人の祈りの家と呼ばれるべきである」。すなわち両替など必要ない、壁を建てて異邦人を遠ざけることもない。「すべての国の人の祈りの家」なのだから。イエスの狼藉自体は小さなものだったが、「すべての国の人」に開かれる、根底からの転換だった。

「わたしの名によって呼ばれるこの神殿に来てわたしの前に立ち、[救われた]と言うのか。お前たちはあらゆる忌むべきことをしているではないか。わたしの名によって呼ばれるこの神殿は、お前たちの目に強盗の巣窟と見えるのか。そのとおり。わたしにもそう見える、と主は言われる(エレミヤ 7:10~11)」。神殿の深刻な墮落、「救われた」と神を讚美しながらも不道德な信仰者。そんなお前たちが強盗の巣にしているのだ、と神は言う。そうだ、そのとおりだ、と神は念を押して悔い改めを迫る。

イエスが狼藉したのは悪に染まった神殿において。そんな悪の秩序に、ユダヤ人はもちろん、異邦人もまた場所を与えられ飼ひ慣らされていた。イエスの狼藉はささやかな珍事ではあるが、相手は神殿の権威、確実に十字架を引き寄せた。それでもイエスは、命を賭して私たち異邦人を解き放った。

異邦人の救いこそユダヤ人の救いであった 異教徒・無神論者の救いこそキリスト者の救いである
 イエスはキリスト者の障壁を壊して私たちを解き放つ だから伝道するのだ 壊された壁を超えて
 本日礼拝後に役員会。また今日はカレーの日です、皆さん遠慮なくお召し上がり下さい。次主日 8/11
 は平和を祈る礼拝。8/7(水)1:00~3:00 教会カフェ開店。8月は聖書研究会などは夏休み。

礼拝堂・集会所の住所：408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ：408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

eメールは komechan.olive@gmail.com HPは「日本基督教団八ヶ岳教会」で検索して下さい。